

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/成人看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
成人看護学概論		必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
小林 美雪	407	m.kobayashi	水曜日 16:00 以降		
授業の目的・概要	基礎看護学概論で学んだ知識を基に成人期にある対象を理解し成人看護に必要な基礎知識を学習する。授業は成人各期の発達段階の特徴や発達課題、成人を取り巻く環境や生活習慣と健康問題の関連性、成人期にある対象の健康状態に応じた看護の概要や成人看護学の基本的考え方を学習し、成人看護に対する理解を深める。授業は対面により学びを深める。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	看護学概論で学習した人間、看護、看護の役割などを復習した上で、成人期にある対象を理解し成人看護に必要な基礎知識を学習すること。				
教科書	成人看護学概論/成人保健第6版/編：黒江ゆり子/メジカルフレンド社/2018				
参考書	国民衛生の動向2021/2022/厚生労働統計協会/2021				
外部教材					
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	ライフサイクルから見た成人期の位置づけについて説明できる。	NS(1)(2)			
②	成長・発達過程からみた成人の特徴を説明できる。	NS(1)(3)			
③	成人を取り巻く環境と生活について説明できる。	NS(1)(3)			
④	成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策について説明できる。	NS(3)(4)			
⑤	成人の健康状態に応じた看護に必要な基本的考え方について説明できる。	NS(1)(2)(3)(4)			
⑥	成人の健康状態に応じた看護の特徴について述べるができる。	NS(3)(4)			
授業計画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	成人看護学の対象について学習する。	講義	事前課題：エリクソン、ハビガースト、レビンソンの発達課題をまとめる。	4	
2	成人を取り巻く環境と生活について学習する。	講義	事後課題①：「青年期の発達課題と自己」についてレポートして提出する。	4	
3	事後課題①を基に、成人を取り巻く環境と生活について学習する。	講義 反転授業	事前課題：第2章を読んで、質問に答えられるようにする。	3	
4	成人の健康状態に応じた看護に必要な基本的考え方を学習する。(ヘルスプロモーション、患者の権利、意思決定、インフォームドコンセント等)	講義	事後課題②：国民衛生の動向の「わが国の人口の推移」「年齢別人口」「生産年齢人口」について自己の考えをまとめて提出する。	4	
5		講義・グループディスカッション・プレゼンテーション	事前課題：第3章を読んで、質問に答えられるようにする。	4	
6	事後課題②を基に、成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策について学習する。	講義 反転授業	事前課題：第3章のまとめを行い、統計的に成人の健康について考える。	3	
7	成人の健康状態に応じた看護の特徴を知る。(急性期、リハビリ期、慢性期、終末期)の概要	講義	事前課題：第4章を読んで、質問に答えられるようにする。	4	
8	次年度の成人看護援助論に繋げるまとめを行う。	講義・グループディスカッション・プレゼンテーション	事後課題③：「成人看護学概論での学び」についてレポートして提出する。	4	
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照				

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/成人看護学】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		60	40	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	40	10	0	0	0	50
	思考・推論・創造する力	10	20	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	10	10	0	0	0	20
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	基本的知識について、60%評価する。				試験終了後に振り返りを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
レポート	①	✓	レポートにより、授業内容の理解および学生自身の考え方が明確に表現されているかを40%評価する。 (事後課題①②各10%、事後課題③20%)				授業内で助言および共有を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備考							
他担当教員							
教員の実務経験	看護師として23年の臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	看護師として病院(ICU,循環器内科,呼吸器内科,脳神経外科,精神科等)の勤務経験を有する教員が、その経験と知識を活かし、成人看護の基本的な知識の修得を目指す。						
その他	<ul style="list-style-type: none"> 試験への「教科書持ち込み」は不可とする。 面接授業に際しては、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。 問題がある場合は授業への参加を認めない。 新型コロナウイルス感染症の状況などの社会情勢により再度シラバスの変更があることも考えられるが、その際は随時、知らせることとする。 						